

金沢善智^{よしりのり}



1本の 手すりから

「在宅介護」を支える人と用具の物語

目次

はじめに

これからの介護と高齢者

現状とこれから

ケアマネさんと福祉用具専門相談員さん

独り暮らしの高齢者と災害と……

第1章

介護の味方 ケース①～④

ケアマネさんと福祉用具専門相談員さんの協力で

ケース1 協力で強力！ ケアマネさんと奥さん、そして「幼なじみ力」

ケース2 「病気になるって、かえってもうけたね！」

ケース3 お風呂に入ってリウマチの体を温めたい

ケース4 外から見えない私の障害

20 22 28 33 40

12 14 17

3

ケース5	私の生きるための目標は何？	45
ケース6	もう少しだけ、二人で暮らしたい	50
ケース7	お父さんのために新築したのに……	55
ケース8	オムツもポータブルトイレも嫌なの！	61

介護のプロフェッショナル

ケアマネ	福祉用具専門相談員	69
理学療法士	作業療法士	72
ホームヘルパー		75

第2章

介護の味方 ケース⑨～⑯		76
要介護の本人と家族の努力で生活が再建できた		76

ケース9	夫のために「一品だけでも」おかずを作ってあげたいの	78
ケース10	「100の我慢」の中の「つだけ」のわがまま	83
ケース11	そして「命の恩人(?)」は微笑んだ	88
ケース12	ちよっと不思議なお話……先祖様が介護サポーター!?	93

ケース13	食へること つらいこと	99
ケース14	うんこが飛んだ日……	104
ケース15	もう一度、医師として	110
ケース16	もっともっと、両親と一緒に外出したい！	115

高齢者がかかりやすい病気

脳卒中	脊髄小脳変性症	121
認知症	糖尿病	123
関節リウマチ	パーキンソン病	125
肺気腫		126

コラム①	もしも、この世に福祉用具がなかったら……	121
コラム②	北枕の呪縛	122
コラム③	介護技術を日本から発信	124
コラム④	「老老介護」の次に「認認介護」	126
コラム⑤	バルサルバ効果	127

介護保険のサービスや施設	128	通所介護	131
介護保険	128	配食サービス	132
訪問介護	132	特別養護老人ホーム	134
ショートステイ	133		
介護老人保健施設	135		

第3章

介護の味方 ケース⑰⑳㉑㉒ 福祉用具の活用と住宅改修で元氣生活が復活

ケース⑰ 夢は「車椅子の養蜂家」	138
ケース⑱ 妻以外の介助は嫌なんだ……	143
ケース⑲ 二度と外には出ないと決めた人	148
ケース⑳ 共倒れの危機を乗り越えて	153
ケース㉑ 病気はどんどん悪くなるけれど……	158
ケース㉒ 頭より高いところに手すり！	163
ケース㉓ 絶対、トイレの壁に穴は開けたくない！	168
ケース㉔ もう少しだけ、娘のそばで暮らしたい	174

介護を助ける福祉用具のあれこれ

ポータブルトイレ	180	電動ベッド	182
リフト①段差解消機	184	リフト②座面電動昇降座椅子	185
リフト③介護用リフト	186	4点杖	187
歩行器	188	玄関台	189
手すり	190	シャワー椅子	191
工事のいらぬ手すり	192	肘掛けのような手すり(トイレ手すり)	193

おわりに

194

本文の例

CASE
ケース

16

〈脳卒中・夫婦〉

もつともつと、
両親と一緒に外出したい！

●とにかく「ほっ！」としました

私はこれまでに、いろいろな介護の現場を見てきましたが、介護を受けている人やその介護者の疲れきった顔や、他の家族のどこかよそよそしい態度に接することが大半で、気の滅入ることが少なくありません。しかし今回のケースは、お舅さんとお姑さんの二人ともが寝たきり状態であるにもかかわらず、介護者であるお嫁さんの顔に余裕を感じられ、笑顔で迎えてくれたのが印象的でした。

この一家は、節夫さん（60歳）とその妻の絹子さん（56歳）、そしてこの二人が介護をしている寝たきりのお父さん（85歳）とお母さん（80歳）に加え、息子夫婦とそ

の子ども（孫）という、四世代にわたる七人家族で暮らしていました。

節夫さんのお父さんは、2年前に脳卒中が原因で寝たきりになりました。それをお母さんが介護していたのですが、なんとこのお母さんも、1年前に脳卒中で寝たきりとなってしまいます。

いきなり二人の介護者となった絹子さんでしたが、節夫さんが積極的に介護に加わってくれたことで（自分の親だから当たり前のことですが……）、農家の仕事が大変であるにもかかわらず、余裕を持って介護をすることができていたのです。

私がケアマネさんと訪問した日も、整理整頓されたお父さんとお母さんの寝室で、1歳になったばかりのお孫さんが元気に遊んでいる姿を見て、とにかく、とにかく、私は「ほっ！」としたというわけです。

●もっと、親孝行がしたいが……

節夫さんは、両親をもっともつと外に連れ出して、ちょっとした観光旅行や食事などにどんどん連れて行きたいと考えていました。

実は節夫さん、10代から20代にかけて、若気の至りでいろいろと事件などを起こし、

両親にたいへんな苦勞をかけたのでした。それにもかかわらず、節夫さんの更正を固く信じて愛情を注いでくれた両親に、何とか親孝行したいと思っていました。それが「観光旅行や食事のための外出」なのです。その目的のため、自動車を、座席が電動で車外に出てきて車椅子からの乗り降りをサポートする「電動リフトアップシート」が付いたものを買いました。親孝行の気持ちはOK！ 車の準備もOK！ ところが……。

問題は家でした。車椅子に乗せて寝室から自動車まで両親を連れて行くためには、廊下や玄関にある大きな段差を乗り越えなければなりません。節夫さんと絹子さんは、息子夫婦の力も借りながら、外出のたびに毎回毎回、車椅子を持ち上げてみたり、後ろ向きにしてみたりと、大変な苦勞をしていました。節夫さんたち以上に、介助を受ける両親が毎回非常に怖そうで、かつ辛そうでもありません。

●リフトを使えば大丈夫！

節夫さんと絹子さんは、ケアマネさんの提案もあって、両親を外出させやすいように家を改修することを何度も考えていました。しかし、寝たきり状態ながらも認知症

など一切無いお父さんが、家を傷つけることに大反対なのでした。お父さんがこだわりにこだわって建てた家ですから、もちろん節夫さんも絹子さんも傷をつけたくはありません。

私が訪問したのも、「外出時に、もっと安全で楽な方法はないのか」と検討するためでした。敷地の関係で、スロープの設置は無理です。車椅子を電動で上げ下げするリフトも検討しましたが、車椅子を下ろす方向の真正面に塀があるため、これも不可能でした。

その時に、ちょうど福祉用具専門相談員さんが、ベッドのメンテナンスに訪れました。そして私の説明を聞いてすぐに、「90度向きを変えながら上がり下がりするリフトを使ってみてはどうですか」と提案してくれました。そして何と、これまたちょうどデモ用のリフトを営業車に積んでいるという、嘘のような本当のタイミングで、さっそくその場で試してみることになりました。

使ってみた結果、節夫さんと絹子さんが「もっと早くこのリフトを使っていれば、あんな苦勞をしなくてもよかったのに……」と悔しがってあきれぬぐらい、お父さんたちを楽に外に出すことができました。

数日後、実際にリフトが設置されましたが、家には傷ひとつ付きませんでした。そしてリフトの操作の仕方はもちろん、介助するときの位置などについても十分な指導を行いました。

その後、節夫さんと絹子さんは、お父さんとお母さんを連れて、ドライブや畑、食事など、以前の何倍も出かけるようになりました。車窓から過ぎゆく景色を眺めながら、うれしそうに昔話をするお父さん、その話を聞きながら相づちを打ってお母さん、それを見ている節夫さん。家族みんなの喜び様は、たいへんなものでした。後日訪問してこうした状況を確認でき、さらに「ほっ！」とした私なのでした。

